

Newsletter vol. 20

海外留学のすすめ

法学部政治学科特別客員教授

高島 肇久



私は留学をしたことがありません。夢見たことは何回かありましたが、申請の手続きをするまでにも至りませんでした。

私が高校、大学時代を過ごした頃の日本は1964年の東京オリンピックに向けて国際化が急速に進み、外国が身近に感じられるようになっていました。しかし、外国に留学出来るのは、成績がとても優秀か、或いは経済的に恵まれている限られた人々で、私のような「普通の学生」として留学は夢のまた夢でした。そんな私が社会人になって、外国で仕事をしたり、英語を使ったりするようになったのですから、人生とは不思議なものです。

私は1963年に学習院大学の政治学科を卒業してNHKに就職し、それから7年後に海外取材班の一員として初めて外国の地を踏みしました。まだ成田空港が無い時代で、出発は羽田。最初に着いたのがホノルルでした。山のような撮影機材やトランクを到着口から乗り継ぎカウンターまでポーターに運んでもらったのですが、私は荷物のチップは25セントと聞き覚えていましたのでコイン1個を渡し、何か言いたげな彼に「サンキュー、サンキュー」とだけ繰り返して振り切ってしまいました。その後、ロサンゼルスに着いて出迎えの先輩特派員から「チップは荷物1個につき25セントが相場」と聞いたのですが、後の祭り。チップの習慣の無い日本で育った私が、聞きかじった知識だけで処理しようとした大失敗です。たった25セントで10数個の重い荷物を運ばされたホノルルのポーターさんには本当に済まないことをしました。先輩は「良く怒られずに済んだものだ」とあきれていましたが、チップに限らず、ほんの一寸した習慣や考え方の違いが判らずに、仕事の手間取ったり交渉がうまく行かなくなったりといったことを何回も経験しました。社会人になる前に外国を知る機会を得ていれば良かったのにと、何度も思ったものです。

それだけではありません。私はその後、特派員としてベトナム、アメリカ、イギリスなど世界各地でニュースを追ったり番組を作ったりする仕事を続けたのですが、各国、とりわけ欧米のジャー

ナリストが記者会見で見せる質問の仕方や記事の書き方、普段付き合った時の知識や教養の豊富さに目を見張ることが何回もありました。彼らの学生生活は一体どんなものだったのだろうか。日本と外国の教育にはどんな違いがあるのだろうか。外国で暮らし、テレビの取材を続けている内に、欧米の学校や大学では、授業中の積極的な発言や大量の読書がとても重視されていることを知りました。欧米のジャーナリストの知識や仕事ぶりの基礎にはそうした教育があったのです。

留学は、単に言葉が上手になったり、外国での生活を体験したりするだけのものではありません。同年代の外国の若者とともに学び、語り合うことを通して彼らの考え方とそのもとなる文化や伝統に触れ、違いに気づき、それによって自らのアイデンティティを自覚することに最大の意義があると思います。社会人になってはじめて外国を訪れるのではなく、若さとバイタリティーがあって脳味噌が柔軟な学生時代に1年なり2年の時間をかけて外国の大学で学ぶ事が出来れば、その後の人生の地平は大きく開けたものになるはずです。何しろ日本は外国と付き合いなければ国として生きて行けず、好むと好まざるとにかかわらず、ますます多くの日本人が、外国で仕事をし、外国人とともに生活することを運命付けられています。一人でも多くの学習院大生が国際交流センターに足を運び、沢山用意された留学プログラムのどれかに参加して諸外国の学生と机を並べる体験をされるよう切望します。そのことが一人一人の将来に必ずプラスになるばかりでなく、これからの日本を支える人材を育てるという点で極めて重要だと思うからです。

最後にひとこと。これから留学される学生諸君にお願いがあります。是非、世界の出来事に関心を持ち、自分の意見を述べられるよう常に考えを巡らせて下さい。また、日本について語れるよう準備しておいて下さい。たとえ訛々^{とがとつ}であっても、きちんとした考えや個性あふれる意見を述べれば人々は必ず耳を傾け、友達の輪が広がります。下手でも良いからどどんしゃべって下さい。国際人は場数を踏んで初めて育ちます。留学はそのための絶好の機会なのです。

寮とホームステイな(!?)日

法学部法学科4年 宇野 友美



▲寮のキッチンで良く中国の家庭料理を作ってくれた中国人の友人と(右側が宇野さん)

「ホームステイと学生寮、どちらが良いだろうか？」
これは、留学先が決まった後に多くの人が直面する問題でないでしょうか？

そういう私も迷った一人です。そして結果的に留学先のロンドンで両方を経験して帰ってきました。

私が受けた先輩からのアドバイスを含め、一般的に言われる寮の良い所は①同じ大学の学生同士なのでモチベーションが一緒。②それゆえ勉強する時と遊ぶ時のタイミングがあう。③困った時に日本人の友達が近くにいると心強い。欠点はネイティブスピーカーと話す機会やその国の生の文化からは遠ざかること。一方で、ホームステイの良い所は①ネイティブの言葉に触れられる。②その国の文化を知ることができる。③その国の家庭料理も味わうことができる(英国の場合疑問はありますが…)。欠点は家族との生活が中心になるために勉強への切り替えが難しいというところではないかと思えます。

私は初め「寮生活」を選びました。聞いていた通り、寮では知り合いがどんどん増えました。週末には寮に住む友達とよく街に観光に行ったりもしました。同じ大学の学生同士なので、共通の話題もたくさんあって、大学で過ごす時間だけでなく、休日も含め、朝から夜まで同じ空気の中で過ごせます。これも学生にとって一つの魅力的な生活だと感じました。

しかし、そうした生活の中で、「ホームステイ」への関心が高まっていったのも事実です。寮生活では「留学している」実感はあっても「イギリスにいる」実感がほとんどなく、これからイギリスの法律やメディアを学ぶつもりの方が、現地の人々の生の生活を知らないままにいるということに不安も感じていました。そして、1年という短い期間の中で、

HUNGARY

世界の国からいただきます。



Bejgli ベイグリ
ハンガリー編

▲カタリンさん一家(カタリンさんは3人のお子さんのお母様です！)

今回は文学部英米文学科4年 丸山 カタリンさんに、ハンガリーのお菓子「Bejgli」(ベイグリ)を紹介してもらいました。

ハンガリーの人々にとって、クリスマスといえば、Bejgli。1年で1番大きなイベントであるこの休日を、ハンガリーでは、家族や親戚が集まって過ごす習慣だそうで、ちょうど、日本のお正月のような感じだそうです。そのクリスマスに欠かせないお菓子がBejgliだそうで、日本のおせち料理に似た感覚かもしれません。

今回カタリンさんが、実際にBejgliを焼いて持ってきてくれたのですが、生地はしっとりとして、噛むとクルミの甘みと香ばしさが口の中にいっぱい広がり、それはそれはおいしかったです。

実は、カタリンさんも本当に久しぶりにBejgliを作ったそうで、作りながら、クリスマスになるとBejgliを焼いてくれたお祖母様のことなどが懐かしく思い出され、とても楽しかったそうです。確かにお菓子作りには、郷愁を誘う一面があるかもしれません。

ハンガリー語で「いただきます」は、Jo etvagyat kivanok(ヨーエトバージャトキーバノク)と言うそうです。

ではみなさん、Jo etvagyat kivanok!

●材料(10人分)

生地

バター(またはマーガリン)ー100g、ラードー100g
砂糖ー70g(イースト用を含めて)
イーストー50g(または適量のドライイースト)
卵黄ー2個、牛乳ー100ml、塩ー少々

詰め物

クルミー500g(擦ったもの)、砂糖ー200g、牛乳ー300ml
レーズンー50g、バニラー少々、シナモンー少々
レモン1個の皮(おろしたもの)、はちみつー大さじ1

その他

生地に塗る卵黄と卵白/オーブントレイに塗るバター

●作り方

- 1) 少し温めた牛乳に砂糖大さじ1を溶かし、細かくしたイーストを入れる。(ドライイーストの場合、小麦粉に混ぜ込む)
- 2) 小麦粉、バターとラードをボールに入れ、指で練り込む。
- 3) イーストが入った牛乳、残りの砂糖、卵黄、塩少々を加えて生地を作ったら、4つに分け、30分間冷蔵庫で寝かせる。
- 4) クルミを擦り、レモンの皮をおろす。
- 5) 牛乳に砂糖、バニラ、シナモンとはちみつを加え、1~2分間沸騰させたら、クルミ、レモンの皮、レーズンを入れてよく混ぜる。冷えてから四つに分ける。
- 6) 3の生地を長方形に伸ばし、5を全体的に塗る。中身が出ないように横の部分折りたたみ、生地を巻く。
- 7) 卵黄を塗って、温かい場所で30分間寝かす。
- 8) 7にフォークで穴を開け、卵白を塗って、さらに冷蔵庫で30分間寝かす。
- 9) 予めバターを塗ったトレイに8のをのせ、200度のオーブンで35~40分間焼き、冷めてから1cmの幅に切る。



々 in England !

大学の友人とのX'mas Party ▶



少しでも色々な環境に自分をおいて語学力を伸ばしたいという思いもあったので、3ヶ月後、思い切って一般家庭に飛び込むことにしました。

そんな私を迎えてくれたのは、ホストマザーである英国人女性とハウスマートのロシアとスイスからの留学生です。ここで意外に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、一つの家庭に留学生が数人というのもホームステイにはよくある形です。普段は4人の生活でしたが、ホストマザーのお友達や近くに住んでいる娘さんやお孫さんがよく遊びに来てくれる、人の出入りが多い家でした。自分の周りの英語人口が増えて、生活の中では期待通りに会話におけるボキャブラリーは一気に増えました。もちろん、それに伴い自分の英語力のなさを実感して苦しむことも多くなりましたが、時間が限られているだけに、そんな過程でさえ楽しまないと損だと思って過ごしていました。例えば「今日は大学の授業どうだった？」と毎日聞いてくれるハウスマートにはついつい愚痴ってしまうのですが、それはスピーキングの練習。どこの国でもありがちな噂話好きなホストマザーと近所のおばさんの話を聞くのはリスニングの勉強。ふいに意見を求められるスリル(!?)もありました。大のテレビっ子であるホストマザーとテレビを見ることは英国の大衆文化学習。それまでの2ヶ月間の生活で「観光客」からは抜け出していたつもりでしたが、いざ一般家庭で生活してみると、まだまだ見えていなかったものの多さに驚きました。

そこは私にとってとても居心地のよい場所でしたが、学期末試験やたくさん課題を抱えて、みんなとまったり過ごしている訳にもいきません。快適なホームステイの弱点は、正にここにあとと実感しました。自分の中ですべきことの優先順位をつけておかないと、他の人の生活リズムに流されてしまう可能性があります。その頃の私は大学の勉強が大変

すぎて、日本人らしく「誘いにNoとは言いつらい…」と思う余裕も無く、家の中で「No」ばかり言っていたこともありましたが、さすがに付き合いが悪すぎるかなあと思ったこともありましたが、しばらく会っていなかった近所の人が「最近勉強大変らしいね。」と道で声をかけてくれたり、最後の試験が終わった時はハウスマートがシャンパンを開けて祝ってくれたり、どんな状況でも受け入れてくれた周囲には本当に感謝しています。特に何でも言い合えたハウスマート達とは生活の中でささいな言い合いもたくさんしました。でも私が日本に帰って一人暮らしを再開した時、人生初の「逆ホームシック」になったことは、彼らの存在がいかに大きかったかという証だと思えます。

「では結局どちらがオススメ？」と聞かれると、今でもはっきりどちらとは言えません。やはりどちらを選ぶも自分次第であり、どう過ごすかも自分次第です。そして、一番大切なことはどちらを選んだとしても能動的であることだと思います。そうするとその暮らしが自分に合っているかどうか分かって、次の行動や選択肢も見えてくるはず。それは他のことにも共通しています。正直、私自身海外での色々な最初の一步は日本にいる時以上に大きく重たく感じました。「恥ずかしいなー！」と思うような小さな失敗もたくさんありました。それでも様々なことに飛び込めたのは、周りで支えてくれる人と、一つ一つは小さくてもこの留学で叶えたい目標があったからだと思えます。

そのような訳で、最終的に私のオススメは、察にしてもホームステイにしても、「熱い気持ち」を持ってその環境に飛び込んでいくことです!!

お元気ですか、センパイ!?

カザフスタン日本人材開発センター 日本語教育指導助手
砂金 里奈

みなさま、カザフスタンという国をご存知でしょうか？ウズベキスタン、キルギスタン、タジキスタン、パキスタン……世界には「スタン」のつく国がたくさんありますが、「アフガニスタンは知っているけど、カザフスタン？うーん、聞いたことないなあ？」という方は多いのではないのでしょうか。私もご多分にもれず、中国に協定留学する以前は全く知りませんでした。それがまさか数年後、自分が住むことになるうとは……。

私が現在勤務しているカザフスタン日本人材開発センター (<http://www.kjc.kz>)は、2002年に創立され今年で5年目を迎えます。カザフ経済大学と独立行政法人国際協力機構(JICA)によって設立された当センターでは、カザフスタンの市場経済化を担う人材の育成に貢献することを目的にビジネスコース、日本語コース、相互理解事業を行っております。

私は2006年8月より国際交流基金の日本語教育指導助手として派遣され、当センターでの日本語コースの運営全般、具体的には日本語の授業を担当したり、カリキュラムを作ったり、書道教室や囲碁教室など文化講座を担当したり、カラオケ大会の企画運営をしたりといった業務を行っております。当センターでは現在200名余りの学生が日本語を勉強しています。

私は学習院大学日本語日本文学科2年のとき協定留学制度で中国の復旦大学に留学し、昼間は中国語を学び、夜は日本語学校で教鞭をとる生活を約1年続けておりました。学部入学当初から日本語教師に



▲日本文化デー (左側が砂金さん)



▲子供クラスの折り紙教室

なることを目標にしておりましたので、中国での経験は将来の足がかりとして大変貴重な経験となりました。留学が終わる一旦日本に戻り学部を卒業して、2004年7月に再び中国上海に戻り、留学時に非常勤講師をしていた上海朝日文化商務培训中心で約2年日本語教師として勤務しました。上海といっても大都会のほうではなく農業開発区の中にある田舎の学校で、500人ほどの学生はみんな学校の宿舎に寝泊りしていました。初めての社会人生活、文化の違いなどでストレスも多く、とても順調とは言えないスタートでしたが、そんな私の上海生活を支えてくれたのはなんと言っても留学時代にできた友人たちでした。日本人や中国人はもちろん、大学の寮に住んでいた時にとっても親しかったベラルーシ、ロシア、トルクメニスタン、カザフスタンなどからの留学生はほとんどが上海に戻って就職していました。困った時や落ち込んだ時はすぐに彼らに会いに行き、昔を懐かしみ、悩みを相談し、一緒に笑って明日への元気をもらいました。私にとって留学から得た一番大きな財産はかけがえのない友人たちです。能力だけで仕事はできません。精神的な支え、安心感があって初めて仕事に本腰を入れられるのだということをこの時学びました。上海からカザフスタンへ移動する時も、友人たちからはいろいろの助言をもらって、励ましてもらいました。後輩のみなさん、将来目指す仕事に直接関係がなくても、留学することによって得られるものはとても大きいと思います。チャンスがあれば是非海外に出て、信頼できる仲間と出会って来てください。

2008年度 協定留学プログラム(第2期) 派遣学生募集中!

国際交流センターでは、現在、2008年度第2期(派遣先:中国、アメリカ、ヨーロッパ等・留学期間:2008年10月~2009年9月)の出願を受け付けています。

「協定留学」というと、まず、倍率が高いのでは?と考えていませんか?でも、実は皆さんが想像しているほど、高くありません。また、選考も書類審査と面接だけとシンプルです。

ただし、一定の語学能力が求められるだけでなく、学力や、留学に対する姿勢などが厳しく問われます。

出願に際しては、説明会への参加が求められます。また、留学報告会等の開催も予定されています。先輩達の話は、大変参考になりますので、ぜひ、ご参加ください。

募集要項は国際交流センターで配布しています。多くの皆さんの出願をお待ちしています。

なお、2008年度第1期(派遣先:韓国、タイおよびオーストラリア等・派遣期間:2008年4月~2009年3月)の募集はすでに終了しました。

2007年度協定留学プログラムによる派遣学生の皆さんは以下のとおりです。

派遣先大学	派遣学生
オーストラリア国立大学	文学部英米文学科3年 石田 祐未
復旦大学	法学部政治学科3年 飯原 遥子 文学部日本語日本文学科4年 小松 ゆり
ノースカロライナ州立大学 シャーロット校	法学部法学科3年 小木曾 梨沙 文学部英米文学科2年 安宅 智子
オックスフォード・ブルックス大学	法学部政治学科2年 天野 美保
エディンバラ大学	文学部心理学科3年 森 友香
パイロイト大学	文学部ドイツ文学科3年 久留島 義信
マンハイム大学	文学部ドイツ文学科3年 田中 翔太
ポローニャ大学	文学部史学科2年 鈴木 サマンサ
リヨン第二大学	文学部フランス文学科3年 吉野 藍 人文科学研究科フランス文学専攻博士後期課程3年 中山 慎太郎

平成19年度 大学院学生の国外における 研究発表援助について

Newsletter19号でもお知らせした通り、今年度の研究発表援助は、年1回の募集に変更され、現在、出願受付中です。詳細は国際交流センターのHPや各事務室の掲示板等を通じてお知らせしています。募集要項は国際交流センターで配布しています。

平成20年度 学習院大学海外留学奨学金の募集について

留学に必要な条件の一つとして、「経済力」をはずすことはできません。どんなに優秀で、どんなにやる気があっても、留学資金が確保できなければ、留学することは困難です。

では、奨学金をもらって留学しようと思っている学生さんも多いかもしれませんが、学部学生を対象とした奨学金は限られており、また、奨学金の内容も千差万別です。

そこで、留学を予定している皆さん、ぜひ「学習院大学海外留学奨学金」に応募してください! 留学費用を援助し、できるだけ多くの皆さんが留学のチャンスを得ることができるように設けられた本学独自の奨学金制度なので、学外の奨学金に比べ、奨学金が得られる可能性は高く、また、平成19年度からは奨学生の採用予定人数が15名から20名に増えたので、さらにチャンスが広がりました。

平成20年度第1回目の募集については、国際交流センターのHPでお知らせします。(平成19年度の募集はすでに終了しました。)

応募条件: 教授会等で留学が許可されているか、もしくは海外の大学等へ出願中の者

奨学金額: 1人50万円(給付)

募集人数: 20名(年間)

募集日程:

年度	募集時期(応募締切)	応募対象者
20年度	第1回(平成19年12月)	留学期間が ①H20年4月~H21年3月および ②H20年10月~H21年9月の者
	第2回(平成20年6月)	

※ただし、留学期間が①の者は第1回に応募するのが望ましい。

国際交流センターボランティア募集 のお知らせ

国際交流センターでは、留学生対象のイベント(留学生懇親会など)の企画・運営のお手伝い、留学生の相談相手、短期ホストファミリーなどのボランティアを随時募集しています。

今学期より学部1年生の登録も受け付けますので、登録を希望する学生のみなさんは、来室の上、手続きをしてください。

Newsletter vol.20

October 1, 2007

発行日/2007年10月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html

●編集後記● Newsletterも今回で20号をお届けすることとなりました。節目を迎え、表紙のデザインを一新してみました。新生 Newsletterはいかがでしょう? 本当はこれを機会に愛称をつけたり、内容にも新鮮味を加えたりしてみたかったのですが、いつものことながら、時間切れ。残念ながら、表紙のみの変身となりました。学生部発行の「Compass」のように、いずれは皆さんに親しまれる愛称をつけたいと思っています。ぜひ、アイデアを!

【平成19年度国際交流センター運営委員】

所長	早坂 信	(外国語教育研究センター)
運営委員	MacGregor, Laura	(法学部・外国語教育研究センター)
	Brown, Phillip	(経済学部・外国語教育研究センター)
//	高見 健一	(文学部)
//	中島 匠一	(理学部)
//	宮川 努	(教務部長・経済学部)
//	荒川 一郎	(学生部長・理学部)